

risei + trip

vol.
21



特集

私が履正社を選んだ理由。

私が履正社を選んだ理由。

人生では、何度も「選択のとき」が来る。その一つが学校選び。

「将来、何になりたい?」「好きなものは何?」「何を手に入れたい?」

答えが出ないときは、誰かの体験談を聞いてみるといいかもしれない。

例えば先輩。彼らはなぜ、履正社専門を選んだのだろう。



①バスケに打ち込みながら審判とコーチのライセンス等も取得できる ②十三と箕面のキャンパスをつなぐ専用バスが運行し、ダブル・ラーニング制度が活用しやすい ③「履正社の先生たちは、自分で考える力を育てようとしてくれるんです」と笑う栗本さん



photographs by Naohiro Kurashina

調べると見えてくる、学校の特色・魅力。

理学療法士の資格を取得できる学校を探すうちに、履正社専門にたどり着く。ホームページを眺めていると、「アスレティックトレーナー（AT）」という言葉が目に飛び込んできた。調べれば調べるほど興味が湧く。「履正社なら、関西で唯一、理学療法士とATの資格が同時に取れる」とわかつて、学校選びが決まりました」

入学した1年目から、午前は理学療法、午後はATの授業が始まる。

「両立するのは正直大変でした。だけど、『やめたらここに来た意味がない!』って自分を励ましていました」

夢は、理学療法士とATの資格を武器に、プロサッカーチームのトレーナーになること。自身のケガの経験から、ユース選手の傷害予防にも興味がある。

「理学療法とATの勉強を始めてわかったのは、ケガのない身体があつてこそ、技術が光るということ。それを伝えられる人になりたいです」

先輩たちが履正社を選んだ理由の背景には、熱い思いとドラマがあった。あなたは? きっと自分だけの

「履正社ではバスケと鍼灸の両方を学べると知って、一瞬で進路が決まりました」

そう語るのは、去る3月にバスケットボールコースを卒業した北野さん。彼は現在、本校独自の「ダブル・ラーニング制度」の「メディカルアスリート専攻」を利用して鍼灸学科に在籍している。1年目はバスケットボールコースの授業に専念。2年目は、午前はバスケ、午後は鍼灸の授業を受けてきた。そして今年4月からの3年目、続く4年目では、医療国家免許の取得に向けて、鍼灸学科の授業に集中する予定だ。

バスケ一筋の彼は、なぜバスケットボールコースと並行して、鍼灸学科でも学ぶことを選択したのか。

「将来は、バスケのトレーナーになりたいんです。そのためにはバスケの技術や知識以外に、何が必要だうと考えました。履正社の先生に相談したところ、鍼灸はスポーツに強いと教えてもらって。本気でバスケができるうえに、医療国家免許も取れる学校なんて、僕のための学校です!」

履正社を選んだことは、自分にとって「大当たり」と笑う北野さん。

「鍼灸学科では、自分の興味のある実習先が選べるもの魅力です。僕は、プロバスケットボールチームの大阪エヴェッサの選手をケアする治療院を選びました」

実習後は、バスケのプロ選手も通う、スポーツ鍼灸に

強い治療院でのアルバイトを始めた。これまで、こ

れからも、「大好きなバスケのそばにいたい」。その願

いを叶えるために、彼は履正社を選んだのだ。

ターニングポイントは、全治半年のケガ。

北野さんと同じく、「ダブル・ラーニング制度」を利用しているのが栗本虹見さんだ。彼女は、医療アシスタントイックトレーナー（AT）を選択し、理学療法士と、日本スポーツ協会公認AT資格の同時取得を目指している。

小学校2年生からサッカーを始め、日本女子サッカーリーグ（なでしこリーグ）に所属するASハリマアービオンのユースでプレーしていた。しかし、中学校1年生のときにケガが彼女を襲う。第5腰椎分離症で全治半年。自宅でできるリハビリメニューをするように、理学療法士から言い渡された。しかし、治るのを半年も待つてはならない。1秒でも多くグラウンドにいたかった彼女は、リハビリメニューを怠った。

「治すのが優先!」って叱られました。そのときに、本気で私のケガを治そうとしているんだってを感じた。理学療法士を目指すきっかけになりました」